

会議名：平成29年度高知県小規模林業推進協議会・第3回協議会

録音日：平成30年3月19日

場 所：かんぼの宿伊野

出席者：100名

## 会長挨拶

### ○中嶋会長

小規模林業推進協議会の設立から3年が経過し、会員も約460人と順調に増えてきています。新たに参入する方々が、小規模な林業を実践するための技術や支援制度の活用など、今後展開していく上での相談を受けられる体制を、来年度にかけてつくっていきたいと考えています。

今日は、走り始めた若者2人による事例発表がありますので、それを参考にしながら、みんながレベルアップできればと思います。

## 活動事例発表

### 【事例1】

- ・『Iターン新規参入と林業の6次産業化』

山番有限責任事業組合 代表 川端俊雄氏

### ○川端氏

林業を始めて5年。

地域おこし協力隊3名で、自分たちがやっていけるかどうかを試す意味で、有限責任事業組合（LLP）の方式で団体を立ち上げ、スタートをきった。

地域おこし協力隊の制度は、林業に新規就業しようとする者にとって、すごくありがたい制度で、僕がお世話になった本山町は個人的にはベストだと思っています。

山番LLPの事業内容は、主に素材生産に軸足を置いてやっており、事業の形として、大きく分けて3つのパターンがあります。

まず1番目として、山主さんと直接契約や協定を結んで、1カ所1カ所施業をおさめていくというやり方で、自分たちは基本これを大事にしています。

小面積の山林が多いので採算が合わせづらい山を、できる限り自分たちで請け負って、

山主さんにも確実にお金を返していくというのが自分たちの使命で、大切にしていきたいところです。

2番目として、森林組合からの請け負いの仕事があります。煩雑な事務作業、補助事業の申請作業、境界の確認などは森林組合がやってくれるので、自分たちは山での施業に専念できます。

3番目として、共有林の長期施業委託です。今年、93ヘクタールの山を永続的に管理してみないかという打診をいただきました。永続的に山を管理することが可能だという確約、俄然、やる気が湧きます。次の間伐も視野に入れて、この山をどうしていくかというのを、本当に親身に考えてやっていくことがすごく楽しいです。

長期施業委託で、しかも大面積というお話しがいただけるのは、林業の担い手が本当に不足してるという現状のあらわれだと思います。それは裏返すと自分たちにとってすごいチャンスであり、チャンスをいただけたことを裏切らないように、これからもその山に入り続けて、いい山に育てていきたいと思っています。

伐り旬、秋の彼岸から春の彼岸と言われている時期は、作業道の作設や搬出間伐を主とする素材生産業をやっています。

それ以外の5月から8月は、メンバーそれぞれがやりたい副業を組み合わせています。林業の6次産業化であったり、山林の集約化事業であったり、地域内での柚の収穫であったり、川の観光業のバイトであったり、いろんなことを組み合わせています。

副業を組み合わせるといって、本当に自分がやりたいことを組み合わせることで食べていけるので、すごくおもしろいと感じています。

本当にやりたいことは別にあり、古くて新しいというか、苗を育てて、植林をして、下刈りをしてと、植えて、育ててこそ、自分が林業をやっていると言えると思うので、ぜひやっていきたいし、自分の山を手に入れることがまず第一歩だと思っています。

そして、一緒にやってくれる仲間を絶賛募集中です。嶺北は森林率も高く、植林率も高いので、まだまだ新規就業を受け入れるキャパはあると思います。林業をやるのであればぜひ嶺北に来てほしいと思っています。

小規模林業を実践していく上でのアドバイスは、僭越ながら、一日一日真面目に山に入る。これに尽きます。これを続けていけば、持ち山がなくても仕事が途切れることはないと思っています。その反面、ちょっと気の迷いというか、金欲に走って山を荒らす

ようなことがあれば、多分その地域で食べていくことはできないでしょう。だから、植えてくれた人の労力を本当にリスペクトして、山にかかわり続けていきたいなと思います。

#### ○質問者

施業地の確保について、どのような工夫や努力をされていますか。

#### ○川端氏

とっかかりとしては協力隊在籍中に役場経由で1つ施業地をらせていただいて、そこで自分たちのできる範囲で精いっぱいおさめた結果、山主さんにもお金を還元でき、そこから自然発生的に周りに広がって、ほとんど営業することなくお話は絶えずいただいています。Iターンで新規就業となると、そのとっかかりが全てだと思います。

#### ○質問者

現在4名でされてるということなのですが、シーズンを通して、あるいは現場でどのような役割分担でされてるんですか。

#### ○川端氏

役割分担は特に決めてなくて、全員が何でもできるという形でやっていく方針です。誰かがいなくなったら現場が回らないということはないように心がけてます。

### 活動事例発表

#### 【事例2】

##### ・「佐川町の森林管理」

佐川町産業建設課 自伐型林業推進係 笹岡亮太氏

##### ・「自伐型林業の実践」

滝川景伍氏（元佐川町地域おこし協力隊）

#### ○笹岡氏

佐川町では平成25年度から高密度の路網整備による持続的な森林経営を目指す自伐型林業を推進しており、平成27年度には担当部署である自伐型林業推進係をつくり、具体的な取り組みを推進、実践しています。

その背景には、人工林面積が町面積の約半分の約5,000ヘクタールほどしかなく、そ

の中でいかに多くの雇用を生み出し、森林資源を活用させていくか考えたときに、おのずと自伐型林業を選択いたしました。

自伐型林業推進にあたって、3つの大きな柱があります。

1. 担い手の育成。2. 林地の集約。3. 森林情報の整備。このうち1と2に焦点をあてて説明します。

担い手の育成については、国の地域おこし協力隊制度を活用し、平成26年度から10年間毎年継続して雇用することとしており、現在は10名の地域おこし協力隊が自伐型林業に携わっています。

練習場所は、約30ヘクタールの町有林を初め大きく3つに分けてあり、任期の3年間で林業技術を習得していただきますので、県の林業学校での研修等で林業に必要な資格を取っていただいたり、町実施のスキルアップ研修に参加したりして、技術習得に務めるという流れになっています。

今年度に任期満了した者が3名おり、うち2名が町内で林業をなりわいとして生活しています。

次、自伐型林業の研修を土佐の森救援隊に委託をし、実施しています。研修内容は初心者である町民向けの基本的なものや、地域おこし協力隊のスキルアップ研修となっており、チェーンソー研修、伐木・造材、作業道開設、森林経営等を全国各地の講師の方に研修していただいております。

受講後、実際に副業として林業を始められた方が、把握してる範囲で4名います。

続きまして、林地の集約についてお話をさせていただきます。

現在、佐川町にある山林のほとんどが、間伐等の手入れがされておらず、管理されていない山林が多数を占めております。そこで、個人の山林を20年間管理していき、施業を地域おこし協力隊の任期満了者等に委託する取り組みを行っています。

この仕組みのメリットとしては、山主さんは費用をかけずに山林管理ができる。間伐をするので、良質な立木が育ちやすくなる。そして、間伐材売り上げの10%を還元しますので、少しですが収入もあります。

佐川町としては、手入れを行うことで環境保全が回復すること。雇用が創出され、地域が活性化されます。地域おこし協力隊任期満了者等の自伐型林業事業者は、施業場所が確保でき、安定的に収入を得ることができるというメリットがあります。

林地集約を行う場所については、平成27年度から着手の地区については、平成28年度

実績として、約90ヘクタールの合意をいただき、現在までで約60ヘクタールの管理契約を結んでおります。平成29年度着手の地区については、現在アンケート調査を行い、順次管理契約を結んでいる状況です。

林地の集約に当たって最も重要なのが森林所有者の情報となります。佐川町では森林所有者を調査する臨時職員を配置しており、町外所有者や登記名義人の相続人は公用申請にて現住所を調査しております。その調査をもとに、エクセル管理の所有者台帳を作成し、集約対象エリアの所有者に対して、山林管理の意向アンケートを実施しております。また、集約化においてお手伝いをしてくださる、山林集約化推進員を設けており、集約対象エリアにある集落活動センターの協力を得て、推進員を任命しております。

最後になりましたが、担い手の育成、林地の集約化については、佐川町の森林管理の取り組みの基盤でもあり、行政として力を入れるべきところだと考えております。

## ○滝川氏

林業歴は3年半。佐川町で地域おこし協力隊として3年間勤め、昨年の10月末で任期を満了、それから独立後今ちょうど5カ月がたとうとしているところです。

京都出身で、今、34歳です。前職は東京の出版社で雑誌の編集者をしていました。

30歳を機に高知県に来たという形です。

家族構成は妻と息子と娘の4人家族で、息子が半年ぐらいのときに移住してきました。娘はこちらに来てから生まれました。

佐川町に来たのが、2014年10月。自伐型林業の地域おこし協力隊に応募をしてまいりました。

自伐型林業、小規模林業を始めたきっかけは、30歳を機に何か違うことやりたいと思い、最初は農業を考えていましたが、自伐型林業推進協会の事務局長をやっている大学時代の登山サークルの先輩を通じて、自伐林業という言葉を知り、調べていくうちに高知県が一番最先端を行っていることがわかり、ちょうど佐川町が自伐型林業で地域おこし協力隊を募集しているというので応募しました。

地域おこし協力隊時代には、町有林で作業道づくりの技術習得や間伐長伐期施業を目指す間伐方法の習得、あと資格の取得もしました。キコリンジャーとしての活動もしていました。

任期の3年間が終わり、昨年の11月1日から個人事業主として、今は山の施業をして

います。役場の方の知り合いの方から話をいただいて、加茂地区の山林約2ヘクタールの里山で施業しています。

地域おこし協力隊3年目のときから施業をはじめ、今年で2年目です。今年は1ヘクタールぐらい施業しました。道が590メートルぐらい。幅員2.5メートルの道で、幹線や支線を入れてやっています。

作業道は、県の補助事業を使って3トンクラスのユンボをレンタルし、つくり方は大橋式作業道で、幅員は2.5メートル、切高は最大で1.4メートルぐらいになるような形です。

伐倒は、道にかかるようにして、バックホーを使って出しています。今はグラップルがついているので、グラップルで引き寄せて道の上で玉切りをして、枝払いもするようにしています。そのほうが安全性が高いと思います。

4カ月間データをとりました。末口径と長さのデータ。出材した中で、ほとんど3メートルで出材をしてるんですが、末口16センチ以下がほとんど主流。今40年生ぐらいなので、これからということがわかると思います。

AからC材の割合ですが、B材が、曲や大曲の材が圧倒的に多いです。

これは長さ別。3メートルと4メートルと6メートルで出しているもので、これで直、小曲、曲、大曲の割合を見た図です。

3メートル台は、やはり曲、大曲が多いです。4メートル、6メートルは自分では直だなと思って出してるんですが、4メートル、こんなに曲が出てるので、全然、自分が思ったとおりにはいってないんだなというのがわかります。グラフにすることで、今後どういうふうに造材していくかというのを自分でわかるようにつくっています。

地域の人から、ちゃんと食べていけるのかという質問をよくされるので、どれぐらいの収益が上がってるかというのを出示してみました。作業時間が390時間。これは任期が終わる直前の10月からちょびちょびと始めて2月までの5カ月間の時間です。月に平均すると15日ぐらい山に入っているんですが、人工としては56人工ぐらいです。1日7時間稼働だったとして、1日当たりになると2万6,000円ぐらいの日当で、1月当たりだと29万円ぐらいになりました。

副業ではないんですが、子供が小さいので、ほとんど家事と育児をしまして、土日は必ず休むようにしています。

東京にいたころは土日も出勤して、終電で毎日帰るような生活をしていたので、ここ

まで子供とかかわれることはなかったなと思うので、今の生活ができているのは、こういう小規模な林業をしているからできるんじゃないかなと思います。

地域への参入はどうしてるのかということをお話してほしいというのもあったんですけども、草刈りとかには参加していますが、飲み会に全部参加するとかはしていません。やり過ぎると、多分、自分的には大変になると思うので、無理せずに、ただ普通に暮らしているという感じで、移住者だからと気負わずにやっております。長期戦だと思うので、無理をせずにやっております。

今後の課題と目標です。まだまだ実力不足でして、道をつけていても、やはり木に傷をつけてしまったりとかもしています。また、1人で施業をしているので危険性が大きいなと思い、これが不安なところです。

それから、補助金に頼らずにできるよう頑張りたいなというところです。

目標は、これの裏返しですけども、日々山に入ることで技術力を向上していく。それから、販売力もアップしていきたい。

これから協力隊のメンバーも任期満了で卒業していくので、その人たちとも協力をして、チームで作業ができればなと思っています。

いろんな夢があり、やはり、自分の山というのを持ってみたいなと思っています。それができるように資金集めと、地域でのコネクションをつくっていければなと思っています。

## ○質問者

注文材が来て、かなり値段がよかったというお話がありましたが、その注文材は用途とか販売先、どういうふう注文をもらったのか教えてください。

## ○滝川氏

用途はフラフざおです。こいのぼりを立てるときの材で、末口5センチ、元口が15センチぐらい。11メートル材、できれば直材。これは地元の同じ斗賀野地区の製材所の方から、同じ協力隊の方が話をもらって、それが回ってきました。

## ○質問者

林地集約化で地域を回って相談をするときに、所有者不明の土地ってありましたか。

## ○佐川町

実際あるかないかと言うとあります。相続登記がちゃんとできてない土地があり、それが主な原因です。

○質問者

木炭用の広葉樹の伐採やシイタケ栽培などと組み合わせようなことは考えていますか。

○滝川氏

今そういう山にあたっていないので、できないというのが現状です。やりたいことはたくさんありますが、まずは杉やヒノキの植林地で、地域の方が施業した山を見て、ちゃんときれいになったねと言ってもらえるような山づくりを目指してやり始めているところです。

○質問者

森林所有者にはどれぐらい還元するのか教えてください。

○笹岡氏

施業者は間伐材の売り上げの10%を山主さんに還元すると、資料に書かせていただいています。

### 林業労働安全衛生研修

・「一人作業に潜む危険について」

高知県立林業学校 非常勤講師 峯本泉氏

○峯本氏

施業する際、一番持っておいたら良いと思うのが人に知らせるための呼子です。呼子にはいろいろな種類がありますが、少ない吹き量で遠くへ聞こえる呼子を持っておくと良いです。

怪我をする前提で考えると、複数人でやる場合はミーティングできますが、一人作業の場合はミーティングできません。その場合、自分が怪我をしたときに、誰に連絡するかを思い浮かべてください。そしたらその方に、定時の連絡をすることが大事です。

例えば、朝、山に行くときに連絡、お昼に「今から飯食わあよ」という連絡です。もし連絡がなければ、その方は事故してるかもしれないから見に行かなくてはならない、

来てほしいですね。

連絡を忘れて、その方が来てくれて、でも何もなかったらそれでいいじゃないですか。

フォワーダ、林内作業車は、過積載は危ないです。石の上や段がついているところでハンドルをきると回ります。運転スピードはできるだけ低速で、慎重に運転していただきたいと思います。

災害を発生させない伐木方法をとってください。そのためにはやっぱり器具です。一番あれば良いのは、チルホールです。次ロープです。ロープの使い方もすごく重要で、まず自分のほうに倒れてこない引っ張り方をして欲しいです。あとは、くさびとフェリングレバーで、掛かり木になったときには使えます。

次、災害を起こさない器具があっても、もし起きたときどうすんのというところですよ。どうすんのといえば、やっぱり事前の対策です。防護スポンです。チェーンソーで切ったら、足切れますよ、多分。

携帯電話。GPS機能がついてるもの。今、iPhoneとかスマホならこの機能ついています。ついてるので、場所の確認ができます。自分の場所の確認ができます。それ覚えといたらいいと思います。

GPS機能付きの携帯でなら、緯度・経度がぱんと出ます。北緯何度何十分何秒まで出ます。だから、それを消防に言っていただければ、ここまで来ますよという話です。

最後に、自分の命なんで守るしかないんです。これ別に小規模の方だけじゃなくて、本当に事業体の方も、別に事業体が命守ってくれるわけではありません。

やっぱり災害を発生させないためには器具も必要ですし、防護着というのはもう絶対に必要なんだという気持ちで、これからの林業、お願いしたいと思います。

やっぱり次世代につなぐ林業とか、永続的な林業をやるためには、けがしたらなかなか厳しいものがありますので、そこしっかり考えていただいて、今後も皆さんの林業を続けてほしいなと思います。

## ○質問者

風倒木の処理の勘どころ、注意すべき点についてアドバイスいただけたらと思います。

## ○峯本氏

風倒木はすごいテンションで、木が3本重なってる場合はどう処理していいかわからないと思います。その場合はやはり器具を使用することです。ユンボとかがあれば、ま

ずそれを使うこと。次に、チルホールです。

一番やってはいけないことは、チェーンソーだけ持って行くということ。

また、1人では行かないということ。風倒木は絶対1人で行ったらだめですよ。連絡がつかないので。風倒木は難しいので、実際はやらないほうがいいと思うんですけど、やる場合だとやっぱり器具をしっかり持って行ってやってください。

#### ○質問者

自分の位置情報を確認するのに、携帯電話のGPS機能を使ったほうがいいということですが、携帯のGPSのアプリで、重宝してるようなものはありますか。

#### ○峯本氏

i P h o n eだとコンパスがあると思います。それをひらいていただいて、位置をオンにすると現在地の緯度・経度が出てきます。